

雪浦には、
音楽家にとって
必要なものが
すべて揃っている。

西海市
雪浦
YUKINOURA

ヨーコさんが好きな場所「つがね落としの滝」にて。雪浦ならではの大自然を感じるスポットだ。



Yoko Cantaluna
移住者
ヨーコ
カントルーナさん
音楽家

GOOD LIFE YUKINOURA

国を転々としていたヨーコさんが広島から雪浦への移住を決めたのは七年前。「六十歳を迎えた時に、人生の最終章は故郷・長崎で過ごしたいと思いました」。そんな時、長崎に暮らす音楽教室の生徒から紹介されたのが雪浦だった。

まずは一週間の予定で雪浦を訪ねたヨーコさんだが、初日に移住を決めたと振り返る。「言葉にはできませんが、目に見えない空気が私に合っていると直感しました。自然はもちろん、カフェで出会った地元の人や移住者の人たち。そのすべてに『ここで間違いない』と思えました」。

それから三カ月後には、雪浦の人になつていった。実際に暮らしてみても、ヨーコさんは雪浦だけでなく、長崎ならではの魅力も感じるようになったという。

「これまで様々な土地で暮らしましたが、こんなにも地元の人とすぐに調和がとれたのは初めてです。本当にあつという間に受け入れていただきました。そうした他者を受け入れるという下地は鎖国時代、唯一の窓口として西洋に開かれていた長崎の歴史から来ているのかもしれない。それは移住してから気付いた、このまちの素晴らしいところの一つですね」。

ヨーコさんが演奏する篠笛の音色は、切なさや温もりが混じったような美しさがある。彼女は篠笛との出会いを「恋に落ちたように好きになつた」と話す。「知識や理論を学ばなくても、自分を表現できる、それが篠笛でした。ほと

んどの和楽器は仏教伝来後に大陸から渡ってきたものですが、篠笛はそれ以前から日本にあったもの。この音色は日本人のDNAに染み込んでいるのかもしれない」。

ヨーコさんは、雪浦には音楽が生まれる環境があると言う。「自然があつて、自分が自然体でいられる静かなまち。でもただ静かなのではなく、豊かさを感ずる静けさがあります。雪浦には、音楽家の自分にとって必要なものがすべて揃っているんです」。彼女は今、二度目の故郷と豊かなハーモニーを奏でている。

雪

浦を拠点に音楽家として活動するヨーコカントルーナさんは、まるで歌うように語る。その優しい口調はメモリーのように心地よい。

父の転勤先であった長崎で六歳までを過ごし、その後、全



雪浦に移住してから生まれた3枚のアルバム